

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	都島区
学 校 名	大阪市立高倉中学校
学校長名	源嶋 史展

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・高倉中学校では、第3学年178名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

〔国語の正答率〕

国語Aは、大阪市平均から－1％、大阪府平均－2％、全国平均から－4.4％

国語Bは、大阪市平均から－1％、大阪府平均－2％、全国平均から－5.2％

〔数学の正答率〕

数学Aは、大阪市平均から＋1％、大阪府平均－1％、全国平均から－1.6％

数学Bは、大阪市平均から＋1％、大阪府平均±0％、全国平均から－2.1％

〔その他〕

生徒質問紙より、家庭学習の習慣については、大阪市・府と全国平均を下回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

A問題・B問題ともに大阪府と全国平均を下回った。各区分ではほとんどが大阪府と全国平均を下回ったが、B問題の「伝統的な言語と国語の特質」と「言語の知識・理解・技能」は大阪府を上回った。実施している漢字テストの成果は一定見られた。

〔数学〕

A問題は、大阪府と全国平均を下回り、B問題は全国平均を下回ったが、大阪府の平均と同等であった。各区分ではほとんどが大阪府と全国平均を下回ったが、A問題の「選択問題」とB問題の「図形、数学的な見方と考え方、選択問題」は大阪府の平均を上回った。今後も「言語力や論理的思考の育成」を心がけ、習熟度別少人数授業などによって発展的な学習、個に応じた学習とおこなう。

無回答率に関しても、国語数学A・Bとも大阪市と全国の平均値より高いので改善が必要。

質問紙調査より

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果では、

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問に対して「全くしない」と答えた本校の生徒が57.9％で、大阪府（45.3％）と全国（35.6％）と比べて多い。

- ・「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問に対して「ほとんど、または、全く行かない」と答えた本校の生徒が83.1％と、大阪府（66.1％）と全国（58.0％）と比較して多い。継続した図書室への誘致が必要である。

今後の取組

- ・〔学力向上〕において、今年度、本校では教育課程の編成として、国語・数学科において、文部科学省の標準時数よりさらに拡充し、学力向上に向けて取り組んでいるが、さらなる習熟度別の補充学習や補習学習等の実施が必要である。また復習や予習を含め、家庭学習の習慣を身につけさせる取り組みも必要である。

- ・「学校図書館活性化事業や学校図書館活用推進事業」において、生徒の読書活動を推進する魅力ある学校図書館づくりを行うため、家庭や地域、市立図書館とも連携し、授業等でも図書館の利用促進や学校図書館補助員、元気アップコーディネーターの協力も得て、図書館の開館時間の拡大や図書の整理、また自習室の開放等を進め、生徒の興味関心を深めていく。